しただの郷学園小学校の統合　進捗説明会概要

日　時：令和８年２月 20 日（金）
時　間：午後６時開会　午後６時 55 分閉会
場　所：森町小学校
参加者数：17 人

１　市長あいさつ

しただの郷未来の学校設置準備委員会は校舎視察を含めて、５回の会議を開催した。準備委員会の議事録を読んだが、委員には各回１時間半、ときには２時間、地域のため、現在及び将来の子どもたちのために思いを持って議論いただいた。この準備委員会では、大きく４点決定いただいた。１点目は小学校の統合時期を「令和 10 年４月」とすること、２点目は活用する校舎を「飯田小学校」とすること、３点目は小中一貫教育の形態を中学校と小学校の校舎が離れた「小中一貫教育校の施設分離型」とすること、４点目は将来下田中学校の校舎に小学校を統合するに当たっては「統合を経験した児童が２回統合を経験しないように配慮すること」である。皆さんの中には様々な思いをお持ちの方もいることと思うが、これは決定であり、４点とも委員の皆さまが子どもたちのため、地域のために決めたということを御理解いただきたい。

進捗説明会は、この準備委員会の思いを保護者及び地域の皆さまに伝えるべきと考え開催した。進捗説明会を含めこれからも保護者及び地域の皆さまに統合の検討経過をお伝えし、皆さまの御意見をお聴きしたいと考えている。

三条市は引き続き、令和 10 年４月の統合まで子どもたち及び地域のために前に進めていくのでよろしくお願いしたい。

２　資料説明

～資料に沿って説明（野水教育総務課長）～

３　主な質疑

○　小学生のうちに統合を２度経験することがないように配慮するとあるが、中学生になって中学校校舎に小学生が一度に入ってくるということも大きな環境の変化で負担である。そこの配慮はないのか。

→（平岡教育部長）　中学校校舎への小学校統合については、小学生のうちに２度の引っ越しがないように令和 15 年度以降を想定しているものの、実際の子

どもの人数の推移がどうなるかという見込みは難しい。一人の子どもの環境変化が少ないようにという御意見、子どもの人数の推移を見据えて、できるだけ配慮して進めていきたい。

○　統合校の先生は、現在の各小学校からどのくらいの人数配置されるのか。また、統合で２クラスになる学年はどのようにクラス分けを行うのか。具体的に言えば、森町小学校の子どもたちはクラスが分かれるのか、同じになるのか。また、子どもたちが不安になっている中でどうケアしていくのか。

→（相田学校教育課長）　先生の人事権は新潟県教育委員会にあるので、三条市教育委員会は県に要望することになる。現在、各小学校にいる先生が統合校に配置されることは必須であると考えている。ある程度の先生が統合校に配置されるように県に強く要望をしていく。

　クラス替えについては、同じ学校の子どもたちはクラスを分けることが一般的である。しかし、例えば、学年に３人しかいないのに２人と１人にクラスを分けるのかということもある。３人のために同じクラスが良いのか、分けて新しい友達を作った方がいいのかは、在籍する小学校の先生と協議して決定していく。

→（平岡教育部長）　子どもたちの不安にどう寄り添うのかについては、先日、全校朝会で統合について説明し、子どもたちも驚いたと思う。御心配をおかけしたことをお詫びする。教育委員会としては、子どもたちが他の子どもと付き合っていく社会性を大事にしたいという思いである。統合を進めていく上で１年生から６年生の発達段階に応じて、学校を通じてしっかりと子どもたちに働きかける。また、小中連携及び小小連携を進めているが、これまで以上に活動を活発化させて統合に向けて進めていく。

○　保育園の廃止で子どもが別の保育園に移動し、子どもは不安定になった。統合先の先生が対応してくれたものの、市が追加で先生を配置して、もう少し寄り添ってほしかった。この子どもは、小学校統合時に２年生であり、慣れたところでまた別の小学校となり大きな環境の変化となる。県教育委員会に要望することとは別に、市教育委員会が追加の先生を配置し手厚く寄り添うことはできないのか。

→（相田学校教育課長）　県教育委員会に統合の前後何年間は職員を加配するように要望をしている。加えて、市教育委員会ができることは先生と同等の講師

を配置することと、市で雇用している心のケアをする心理専門相談員を手厚くすることを考えている。

→　資料にそういったことを書き、周知していただきたい。

→（平岡教育部長）　今回の進捗説明会資料は、準備委員会が統合の時期、活用する校舎及び小中一貫教育校の形態の検討をした結果を配布している。子どもたちのケア等については、これから部会で検討していく内容であり、しっかりと検討をしていく。

○　統合後に子どもが不登校になった場合、どうするのか。

→（平岡教育部長）　むしろそうした状況にならないように、準備委員会の御意見を聴きながら教育委員会及び学校が準備を進めていく。

○　荒沢小学校と森町小学校が統合したときの保護者であった。子どもたちは統合してもすぐに慣れて、みんな友達になったようだった。保護者は、先生と子どもたちの状況を密に情報交換して、そういう雰囲気づくりや意識の醸成ができるかが大切であると思う。保護者や地域は意見について言うことは言っていただき、地域のためになる統合を進めてほしい。

→（平岡教育部長）　今回の小学校統合では、ＰＴＡはもちろん地域の御意見も聴くために、当時はなかった学校運営協議会及び学園運営協議会の委員に準備委員会に入っていただき、総勢 60 人程度で進めている。この準備委員会の中でしっかりと皆さんの意見を反映していきたい。

４　教育長あいさつ

本日、御参集いただいたことに御礼申し上げる。貴重かつ極めて重い御提言をいただき、これから私達はしっかりと進めていかなければならない問題であると考えている。この森町小学校には１年間務めたことがあり、毎朝、素晴らしい風景を見ることが支えだった。本日も白銀に輝く守門粟ヶ岳の風景を目に焼き付けた。まさに下田地域の自然風景、歴史、農業及び文化を始めとする地域産業は、子どもたちにとってはすばらしい教育資源である。現在、各小学校がこの教育資源を活用して教育活動を展開しているが、統合することで５つの小学校の良いところを一つに集約して、みんなが羨むような笑顔輝く楽しい学校を創らなければならないと考えている。

次回の準備委員会から部会が始まる。学校運営、登下校及び教育課程につい

て、貴重な御意見を聴きながら、統合小学校を創りあげる道のりを歩んでいく。皆さまからは、忌憚のない御意見及び御提案をお聴かせいただき、これからの道のりを見守り、叱咤激励していただくことを切にお願いする。